

私立学校特別研修会 外国語（英語）教育改革特別部会 〔東日本エリア（東京Ⅱ）〕 実施報告

主催 一般財団法人私学研修福祉会
協力 一般財団法人日本私学教育研究所 / 後援 日本私立中学高等学校連合会

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成26年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象にしているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていたことから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成27年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に埒外に置かれた感は否めません。

ついでに、私立学校においても、外国語（英語）教員の外国語（英語）力・指導力強化を図るためには、教員が21世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、当研究所では、平成27年度より専門家の指導による特別研修〈外国語（英語）教育改革特別部会〉を実施しており、平成28年度も引き続き、専門家の指導に上記の「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップを加えて、研修を実施することとしました。

当部会【東日本エリア（東京Ⅱ）】では、初日は、ただ英語ができるだけでなく、物事を客観的にとらえ、英語でも日本語でも自分の考えを伝えることのできる真のコミュニケーション能力をつけるために、有用な英語を身につけるとともに、英語で学び、英語で考える機会を積極的に設け、すべてのコースにおいて、各教科を横断して国際性を育む教育を実施している、工学院大学附属中学高等学校を会場に、授業視察、2016グローバルティーチャーベスト10に輝いた高橋一也・中学校教頭の実践発表、同校の英語科教員との質疑応答・意見交換会を行いました。翌日はリファレンス西新宿大京ビル貸会議室において、鳥飼玖美子先生による講演、私学の新しい英語教育の中核を担うべく文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」に参加した私学教員を指導員に迎え、中央研修で最も関心を持ち、有益と感じた内容について、ワークショップを通して学びました。また、参加者の交流を深めてネットワークづくりを進める情報交換会等、多彩なプログラムを用意いたしました。

- ◆ 会 期 ◆ 平成28年9月30日（金）～10月1日（土）
- ◆ 会 場 ◆ 工学院大学附属中学高等学校（9月30日）八王子市中野町2647-2
リファレンス西新宿大京ビル貸会議室（10月1日）新宿区西新宿7-21-3 西新宿大京ビル2F
- ◆ 参加人員 ◆ 24名
- ◆ プログラム ◆

- ① 研究授業 工学院大学附属中学高等学校（授業参観等）
- ② 実践発表 テーマ 「21世紀型教育を超えて」
発表者 高橋一也 工学院大学附属中学高等学校 中学教頭
- ③ 質疑応答・意見交換 グループでの意見・情報交換を通して課題を探求します。
- ④ 講演 演題 「グローバル時代における英語教師の役割」
講師 鳥飼玖美子 NHK「ニュースで英会話」監修者
- ⑤ ワークショップ ※ワークショップ後にグループに分かれて意見交換会を行います。
テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」
(1) Speaking Activity 1
(2) Speaking Activity 2
(3) Writing

※文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者が担当します。

指 導	酒 井 眞希子	学 校 法 人 石 川 高 等 学 校	教 諭
	伊 澤 悦 子	駒 沢 学 園 女 子 中 学 ・ 高 等 学 校	教 諭
	田 中 步	工 学 院 大 学 附 属 中 学 高 等 学 校	教 諭
	中 川 千 穂	工 学 院 大 学 附 属 中 学 高 等 学 校	教 諭
	池 口 勝 裕	米 子 松 蔭 高 等 学 校	教 諭
	吉 田 美 和 子	鹿 児 島 育 英 館 高 等 学 校	教 諭

◆ 日程概要 ◆

時刻	9 30	10	11	12 10 30	13	14 25	15 30	16 45	17
9月30日(金) 工学院大学附属 中学高等学校					受付	開 会 式	研究授業	実践発表	質疑応答 意見交換会
10月1日(土) リファレンス西新宿 大京ビル		講演	ワークショップ	昼食		ワークショップ		意見交換会	閉 会 式

◆ 学校紹介 ◆

工学院大学附属中学高等学校 [理事長 高田貢/校長 平方邦行]

21世紀型教育を行うことを目標とし、様々な角度から学びを育てている。工学院の21世紀型教育のポイントは大きく分けて3つに分かれている。

1つ目は、グローバル市民として世界で活躍するために高度な英語力の活用を重視している。CEFR:C1を高校卒業時の目標とし、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の養成を重視した授業に英語を織り交ぜ展開している。

2つ目に、双方向型のアクティブラーニングをPIL・PBLのような対話形式の授業とし、「生徒と生徒」「教師と教師」が互いの考えや発想をshareしながら教師がinteractiveな授業を展開している。単純な知識の理解にとどまらず工学院独自の思考コードを用いて、適用・分析・統合・創造など知識の活用を重視した授業を展開している。これによって創造的思考力を養成し、自己肯定感を持った若者を育てている。

最後に、ICTを活用することによってinnovativeな教育の実践を行っている。2つ目にあげたPIL・PBLのような双方向型の授業を進めていくにあたり、ICTが大きな威力を発揮している。

◆ 講師プロフィール ◆

鳥 飼 玖美子 (とりかい くみこ) NHK「ニュースで英会話」監修者

NHK「ニュースで英会話」監修およびテレビ/ラジオ講師(2009~現在)。東洋英和女学院高等部在学中にAFS10期生として米国ニュージャージー州に留学。上智大学外国語学部卒業。コロンビア大学大学院修士課程修了(MA in TESOL)、サウサンプトン大学大学院人文学研究科博士課程修了(Ph.D.取得)。立教大学教授(1997.4-2011.3)、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科初代委員長(2002.4-2011.3)、立教大学特任教授(2011.4-2014.3)、東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻客員教授(2007.4~2009.3)、順天堂大学特任教授/国際教養学部アドバイザー(2015.4-2016.3)、国立国語研究所客員教授(2013.4~2016.3)。

文科省ユネスコ国内委員会、中央教育審議会留学部会、大学設置審議会、国土交通省観光政策審議会等の委員、日本コンgres・コンベンション・ビューロー会長(2002-2008)、日本通訳翻訳学会会長(2004~2010)、AFS日本協会理事(2001-2007)、AFS International Educational Council member(2010-2015)等を経て、現在、内閣府政府広報アドバイザー、日本学術会議連携会員、(公益財団法人)中央教育研究所理事、国際文化学会常任理事。専門分野は言語コミュニケーション論、英語教育論、通訳翻訳学。近著に『本物の英語力』(講談社現代新書、2016)、『英語教育論争から考える』(みすず書房、2014)、『一貫連携英語教育をどう構築するか:道具としての英語観を超えて』(編著、東信堂、2014)等。

◆ 講師・発表者・指導員 (順不同) ◆

鳥 飼 玖美子	N H K 「ニュースで英会話」監修者
平 方 邦 行	工学院大学附属中学高等学校 校長
高 橋 一 也	工学院大学附属中学高等学校 中学教頭
酒 井 眞希子	学校法人石川高等学校 教諭
伊 澤 悦 子	駒沢学園女子中学・高等学校 教諭
田 中 歩	工学院大学附属中学高等学校 教諭
中 川 千穂	工学院大学附属中学高等学校 教諭
池 口 勝裕	米子松蔭高等学校 教諭
吉 田 美和子	鹿児島育英館高等学校 教諭
吉 田 晋	富士見丘中学高等学校 理事長・校長
中 川 武夫	蒲田女子高等学校 顧問

◆ 特別委員・指導員 (順不同) ◆

平 方 邦 行	工学院大学附属中学高等学校 校長
浜 野 能 男	普連土学園中学高等学校 校長
田 中 歩	工学院大学附属中学高等学校 教諭
金 丸 紋 子	カリタス女子中学高等学校 教諭
吉 田 美和子	鹿児島育英館高等学校 教諭
川 本 芳 久	一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長代行
山 崎 吉 朗	一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員

私立学校特別研修会外国語（英語）教育改革特別部会【東日本エリア（東京II）】 実施内容概要

9月30日（金）～10月1日（土）に工学院大学附属中学高等学校で開催。参加者は24名。初日は工学院大学附属中学高等学校において研究授業を視察し、高橋一也・同校中学教頭による実践発表、研究授業を行った先生方との質疑応答・意見交換会を行った。研究授業を行った先生方全員に参加していただき、具体的な授業内容や、研究授業についての突っ込んだ質問などが交わされ、参加者は視察校の先進的な英語教育についての深く知ることができた。2日目は、リファレンス西新宿大京貸会議室でおこなった。NHK「ニュースで英会話」監修者の鳥飼玖美子氏による講演「グローバル時代における英語教師の役割」は大変好評を博した。引き続き、平成27年度文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップ、情報交換会を行った。

開会式



吉田晋・当研究所理事長は挨拶で、まず外国語教育に関しては4技能の時代であることは間違いないこと、入試の英語に外部試験を導入している大学が増えていることを述べた。現在の高大接続の問題についても言及した。各学校が新しい教育にチャレンジして、預かっている子どもが21世紀の社会の中で活躍出来る様に、育て、導いていく立場である。今日の研修会を活かしほしいと締めくくった。

中川武夫・当研究所所長が続いて挨拶を行った。新しい教育がスタートして教育のやり方が変わっている、このことは教員の意識改革に他ならず、研修するしかない。学校のなかでただ話し合いをしてもすすまない。教員の研修が非常に大切になると話した

授業視察

日本人とネイティブのチームティーチングやグループワーク、タブレットを使ったプレゼンテーションをする授業、英語で生徒がお互いにクイズを出し合う活動、タブレットを使った単語クイズなど様々な活動・授業を見学した。いずれの授業でも生徒が英語を積極的に使っていた。授業は英語で行っており、先生は前面にでず、生徒が中心の授業が行われているように見受けられた。参加者からは、双方向の授業、タブレットの効果的な導入、チームティーチングの行い方など様々な面で参考になったという感想が寄せられた。



視察校代表挨拶



平方邦行・工学院大学附属中学高等学校校長より実践発表に先立って挨拶が行われた。2013年から双方向の授業をきちんと学校の中でやるために様々な取り組みを行ってきた。特に重要視したのは学校の中できちっと研修をやること。授業が変わるだけではなく、テストも評価もきちんと変わらないといけないということで三位一体の改革を進めてきた。非同一性を求める時代になっている。学校がそこにきちんと対応出来るかどうか求められている。子ども達はみんな違う、その中で百人百通りとはいかなくても、多様な対応が求められている。日本の私立学校の存在を示していかないといけない。私立学校の仲間としてご指導をたまわりながら、しっかりやっていきたいと思っていますと挨拶した。

実践発表

高橋一也・視察校中学教頭からの実践発表は、視察校の取り組みと、取り組みを行うことになった日本の教育の問題、授業の問題点、将来子ども達が必要になるスキルについてデータや研究に裏付けられた話であった。高度なことを明快に説明した発表であり、発表の内容は勿論のこと、発表者の話し方なども参考になったことがアンケートに書かれていた。



工学院の授業では生徒のアウトプットを重視している。そのためには、英語の先生が英語の他に専門を持っていることが大切である。また、職員室が汚い学校ではアクティブ・ラーニングは起きない。なぜなら、教育は教室だけでなく、学校中のどこでも起きることだからだ。教科同士が協力し合っている。放課後には、週一回大学の先生が来て指導する、生徒は専門性の高い物にも一生懸命取り組んでいる。

日本の教育の問題点としては、まず日本進学率が高いことがあげられる。これはあまり考えずに進学している生徒が多いという面がある。全く何も考えずに進学させる環境や一方的に教えて考えさせない教育が生徒が考えなく進学するようにしている。次に、生徒の安定志向が強いため、70%以上が将来に不安を抱えている反面、自分の得意なことや、やりたいことを理解していない。

日本の授業の問題点は①考え無い授業：講義形式が最も学習効果が低く、教え合いが最も高い。特にHow toを教える事に特化している。②話さない授業：日本では多重知能理論のうち言語的知能だけを評価しがち。③使えない授業：書く力・話す力が低く、授業が役立っているとは感じていない。アクティブ・ラーニングは思想的裏付けを知らずに形だけを行っている。

将来の仕事に必要なスキルは、社会貢献するための力であり、グローバルになるために教員が心を変えていかなければならない。

講演

NHK「ニュースで英会話」監修者の鳥飼玖美子氏からの講演を行った。現代の英語教育の抱える問題点をこれまでの本研修会での講演とは異なった切り口で話された。質疑応答での鳥飼先生の「教師は全部問われている」という言葉は非常に力強く、参加者から身が引きしめる思いがしたという感想が聞かれた。講演は非常に好評を博し、視野が広がった、英語教師として忘れていたことを思い出す良い講演だったという感想が見られた。

経済界から「グローバル人材」という言葉が生まれた。グローバル人材には語学力が重視され、その結果、英語の能力によって社会での地位が決まってしまう状況が生まれてきている。このことが、英語のできない子ども達に陰を落とすことになっている。

ネイティブの子どもは5、6歳までに3万時間英語を聞き続けている。他方、日本の教育で英語にかけられている時間は大学を入れても1,300時間ほど。つまり、出来ることは限られている中では、語彙力は非常に重要であるし、自覚的・系統的に学ぶ必要がある。系統的な学習には母語の重要性を無視出来ない。

共通語としての英語を考える際に大切なのは、流暢さよりわかりやすさ intelligibilityである。CFERがヨーロッパで大きな影響力を持つようになった背景として、各自の文化を超えた「異質性の尊重」「異文化への理解」が重視され、復言語主義がいわれるようになってきたことがある。この復言語主義で大切とされるのは、言語を学ぶのは学校では終わらないということである。教員は生徒が自分を離れたときに自立性をもって学習できるように指導していくこともその重要な役割である。

言語を学ぶのは異文化理解のためのものという観点が今後は必要であろう。コミュニケーション能力だけではうまくいかない。相手の文化、世界観が違うということを理解しながら、進めるという態度を身につけるよう努力すべきである。実際にこの目標を教育現場で具現化するものとして、大学では少しずつ実施されているCLILは、かつての内容重視のアプローチより進んだものである。CLILが目指す content, cognition, culture, communication, の習得には共同学習が不可欠である。

まず、生徒・学生達には目的（夢）を持ってもらいたい。そして違うから面白いという発想を持ってほしい。グローバル人材ではなく、世界に貢献できるグローバル市民（global citizenship）の育成こそが大切。そのためには必要な要件が4つある。まず、自分を知ること（identity）。自分を知ると相手に対して寛容（Tolerance）になれる。言葉を使って関係を構築出来る（Communication）。そして、グローバル市民に必要なことは言葉だけではない。何か得意分野（Expertise）を持つ、中身を持つことにもつながる、大学生ならば専門性を持つ、それを持って世界に貢献してほしい。

ワークショップ

平成 27 年度文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者による、ワークショップを行った。本研修会の内容は「Speaking Activity 1」「Speaking Activity 2」「Writing」。今回もアクティビティに富んだ内容であった。楽しく取り組めた、勉強になったという感想が寄せられた。また、質疑応答・意見交換では指導員が現場でどのように授業を行っているか等の質問とともに、グループでの意見交換も行われた。



閉会式



山崎吉朗・当研究所主任研究より総括

英語教育を進めていくのには色々な考え方があり、生徒達が英語を出来るように先生方皆さんが自分達で考える機会になればいいのかなと思う。語学は使えて、楽しく会話ができれば、生徒は皆楽しくやる。今後大学入試、特に英語の試験は変わっていく。今日の研修を参考にして、英語科の先生と協力して段々と変えていって欲しい。みなさんと共に新しい私学の流れをつくっていければと思う。

◆ 都道府県別参加人数 ◆

No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	1
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	3	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	3	39	高知	0
8	新潟	1	24	三重	0	40	福岡	0
9	茨城	2	25	滋賀	1	41	佐賀	0
10	栃木	0	26	京都	1	42	長崎	0
11	群馬	1	27	大阪	0	43	熊本	0
12	埼玉	1	28	兵庫	0	44	大分	0
13	千葉	1	29	奈良	0	45	宮崎	0
14	神奈川	1	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東京	7	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	0	32	島根	0	計		24

◆ アンケート ◆

回収率 22名/24名 (91%)

問1 当研修会への参加目的をお知らせ下さい

- ・新しい授業のメソッドを学ぶこと、4技能向上のための情報を手に入れること
- ・鳥飼玖美子氏の講演と高橋一也先生の講演
- ・英語教師としての自身の英語ティーチングメソッドの向上
- ・英語教育の最新事情を学ぶため

問2 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい

○研究授業

- ・洋書、iPad、Quizlet、Kahoot it、などを実践利用している授業は大変参考になった
- ・各授業双方向で行われ、生徒の学びを刺激していた点が大変参考になった
- ・生徒の皆さんが能動的に授業に参加し、楽しそうに活動している姿が、大変印象的でした
- ・All English の授業の見学そのものが参考となった、上手く自身の授業に取り入れたい

○実践発表

- ・生きた英語・生活に使える英語を学ばせる場が今の学校教育にかけているという考え方に共感した
- ・グローバル教育の実践について専門的な理論に基づいてマクロな視点でお話ししてくださり刺激的でした
- ・良い意味でショックを受けた、本当のアクティブ・ラーニングをやらなければならないと思った
- ・ICT はあくまでツールであるという点と、ただ机をくつつければAL というのは違うという点に深く共感

○質疑応答・意見交換会

- ・全体では聞きづらい様な細かい話も質問することができて良かった
- ・担当された先生方個人に具体的な授業の工夫などを伺えてとても勉強になった
- ・授業見学はよくあるが「見せっぱなし」の研修会もある中、丁寧に、たっぷり質問の時間をとって下さって、とても充実したものとなった
- ・ALT と日本語教師のコミュニケーションがよくとれている工学院の先生方に感心した

○鳥飼玖美子氏講演

- ・英語教育に関係する様々な背景知識を具体的なデータや例も交えながら聞くことができ、勉強になった
- ・興味深い話ばかりでもっとじっくりお聞きしたいと思った
- ・どんな生徒にも自信をもってもらい、グローバル社会で活躍できるよう、毎日の授業を大切にしたいと思うような講演でした
- ・英語教師として忘れていたことを思い出す良い講演内容でした

○ワークショップ

- ・英語で授業をしてみたいと思うようになった。色々なアクティビティーを通して、学ぶことができ、ぜひ試してみたい
- ・今後自分の授業内でも使ってみよう、取り入れてみようと思うアクティビティーやアイデアを得ることができた
- ・生徒の立場に立ってワークショップに参加することで、生徒の気持ちに少し近づけたように感じた
- ・ワークショップは、本当に受けて良かった。実践的な skill だけでなく、「生徒の気持ち、ここが分からなかった」と自分自身が体験できたことが来週からの授業に活かしていきたい

○意見交換会

- ・参加されている教員の方とお話ができるのは、とても有意義でした
- ・「やろうとすればできる」という言葉に元気をもらった
- ・もう少し時間がほしかった
- ・参加されている先生方の実践例を伺うことができてよかった

問3 今後の本研修会への要望等をお書き下さい

- ・CRILL の実践発表と勉強会
- ・iPad を使った授業の実践例、効果的な電子黒板の使い方
- ・マイクを持って前で話す方のすべての話が、大変面白い話ばかりで、勉強になった